

## 1. 教科で育成したい資質・能力

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

①コミュニケーションを通して、意見の共有や議論ができる力

②生涯を見通して生活の課題を解決する力

◇知識や概念・スキルを統合して活用・応用ができる（使いこなす・活かす）

◇教科と生活を結びつけて考え、生活の中で実践し評価・改善することができる

③社会に貢献しようとする力

## 2. 生活に係る教科として

「生きて働く知識・技能の修得」→「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成」→「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の摘養」→『持続可能な社会を担う社会の一員』になる

## 3. 教科の具体的取組

○グループワークを行い、コミュニケーションを通して、意見の共有や議論をして発表させる。

○社会の変化に対応できるように、重要な事柄・社会問題との関連・問題点について題材を提供し、要約や意見をまとめさせる。

○実生活に直結した生きる力（生活力）をつけさせるため、どんな場面で活かせるか考えさせる。

○授業を通して自分にできることを考えさせ、社会に貢献しようとする姿勢を養う。

## 4. ホームプロジェクト（課題解決学習）

○長期休業中に、「ホームプロジェクト」という個人研究を通して生活改善に取り組み、クラスでグループ内発表・班の代表者による実践発表を行い、お互いに評価する。

○研究の進め方は、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

## 5. 今後の取組

○教員評価、生徒自己評価に基づいた目標設定、授業展開を行う。

○ルーブリック自己評価を活用する。